

Title	開会の挨拶
Author(s)	玄, 仁澤
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, 第50号別冊 日・韓国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義」特集号, 2011.3 : 19-21
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3179
Rights	


 The logo for SERVE consists of the word "SERVE" in a serif font. The letter "V" is replaced by a stylized checkmark symbol. The "E" at the end is also stylized, with a square box at its base.

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

開会の挨拶

玄 仁 澤

皆様、お会いできて光栄です。統一省長官でございます。本日は特にこのような意義のある議論の場が開催されましたこと、韓日研究機関が中心になっての国際学術シンポジウムの開催を心よりお祝い申し上げます。また大変うれしく思います。

ご列席くださいました皆様に御礼と尊敬の意を申し上げます。特に普段から私が尊敬しております康仁徳（元統一省）長官と尹永寛（元外交通商省）長官が心を一つにしてご尽力くださいました。また日本の聖学院大学も

ご協力くださいました。それから、特に私が長い間尊敬しております小此木政夫教授、またヤン・Ｃ・キム教授、そして玄界灘を越えてご来賓の皆様がいらつしやいました。温かい歓迎の意を申し上げます。そして、講演者と討論者の皆様にも御礼申し上げます。

本日、南北が離散家族の再会のために金剛山、開城で実務会議を行っています。本日のシンポジウムのテーマは「東アジアの平和と民主主義」となっております。私は、「これは結局、北朝鮮問題が中心テーマであると思います。皆様にも踏み込んだ議論を行っていただきたいとご期待申し上げます。

皆様もご存じのように、この何カ月もの間、韓半島（朝鮮半島）をめぐる東アジアの情勢が大変複雑に展開されてきました。南北はもちろん韓半島や周辺国が緊迫しております。そのような緊迫した状況で何カ月かたちました。天安艦（韓国哨戒艦）の（沈没）事件は南北関係はもちろん、韓半島や東アジア全体の安保を脅かす北朝鮮の挑発でありました。しかし私たちは、逆説的ではありますが、天安艦事件をきっかけに北朝鮮問題の解決

の必要性を実感しております。北朝鮮問題の裏に存在する北朝鮮問題の本質を見つめ始めました。安全と繁栄の基礎は域内の安保秩序に対する共通の理解であります。域内の安保秩序を脅かす最大の不安定な要因は、まさに北（朝鮮）核問題です。この北核問題の解決は、北朝鮮問題の解決の意味ある進展となるでしょう。そこから初めて、韓半島の平和、そして東アジアの真の平和が始まるでしょう。

旧東ドイツの最後の外務長官マルクス・メツケルは、「統一は自由と民主主義の傘のもとでなし遂げられるべきだ」と述べました。韓半島の統一過程は、自由と人権、民主主義に対する熱望の中で進められるでしょう。このような韓半島の統一過程は東アジアの普遍的な価値と秩序を広げ、民主主義を全国的に完成させると考えております。統一韓半島の登場は周辺国の利益にも合うと思います。統一韓半島は東アジアの新しい平和構造を創出し、地域の安定的な繁栄を導くでしょう。私は確信しております。このように東アジアの平和と民主主義は、韓半島の統一の方向性と関連した問題であると考えてお

ります。私たちはこのような点から当面の課題と長期的な課題にアプローチしなければなりません。

北朝鮮は対内外的にも大きな困難に直面しています。四四年ぶりの党代表者会を準備しているようですが、これは北朝鮮の未来に大変重要な選択の分かれ道に立っていると言つてもいいと思います。国際社会は声を一つにし、非核化と改革・開放を要求しています。中国も北朝鮮の方向の転換を促しています。もはや北朝鮮がこたえる番です。核兵器と閉鎖的な経済では、決して北朝鮮の未来を切り開くことはできないからです。

いま北朝鮮は、天安艦の事件をそつちのけにし、六者協議に向かおうとしています。しかし、南北関係を迂回できる道はないと私は考えております。南北関係は韓半島の問題の軸であるからです。そのため、南北関係の進展なくして、果たして六者協議がきちんと成果を出すことができるか、疑問を抱いております。今回私は、北朝鮮に対し、条件のない緊急水害支援を決定いたしました。韓国政府は人道的な問題は人道的なレベルで解決してまいります。これを政治的な事項と連携することはご

ございません。北朝鮮も純粋な人道的なレベルで離散家族の再会の定例化などの促進にこたえるべきだと思います。

韓国政府は、一方的な関係ではなく、お互いに尊重し協力する、健全で正常な南北関係を築いてまいります。今後、南北関係はひとえに北朝鮮の態度にかかっていると思われまます。非核化のための具体的な行動を見せる時です。そして何よりも、北朝鮮は天安艦事件の收拾をみずからするべきです。

あらためて本日の国際学術シンポジウムの開催をお祝い申し上げます。また、このような大変すばらしいシンポジウムを準備するためにご尽力くださいました極東問題研究所と韓半島平和研究院、日本の聖学院大学関係者の皆様に心より御礼申し上げます。そして、ご参席くださいました皆様のご健勝と健康をお祈りいたします。ありがとうございます。(拍手)